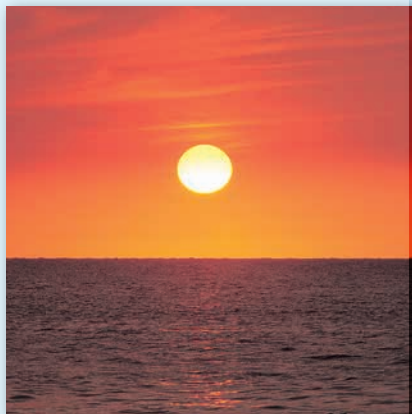


概要版



# 長岡市総合計画

平成28年度～平成37年度



平成28年3月  
長岡市



## 計画策定の趣旨

長岡市は、平成18年度に策定した「長岡市総合計画（平成18年度から平成27年度まで）」に基づき、地域らしさや価値を高めるとともに、平成16年に発生した7.13水害や中越大震災などの災害からの復興に向けたまちづくりを進めてきました。

しかし現在、人口減少社会という、これまで誰も手掛けたことのない新たな課題をはじめ、高齢化、インフラの老朽化、気候変動に伴う自然災害の激甚化など、さまざまな課題への対応が求められています。

なかでも急速に進展する人口減少の問題は、まちの存続をかけた最重要課題であるため、平成27年10月に長岡版総合戦略<sup>※</sup>として、将来を担う若者を地方創生の主役に据えた「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」を策定し、人口減少に歯止めをかけ、活力ある長岡の持続に向けた取り組みを進めています。

総合計画の終期が到来する今、人口減少問題をはじめとするさまざまな課題に対応し、将来に向けて希望の持てるまちづくりを行うため、新たな指針が必要となっています。

これまでのまちづくりの成果を活かすとともに、「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」の内容を踏まえ、今後のまちづくりの基本構想として、新たな「長岡市総合計画」を策定します。

## 計画の位置づけと期間

本計画は、長期的・総合的な展望に立った市政運営の基本構想であり、市のあらゆる計画の最上位に位置づけます。

計画期間は、平成28年度（2016年度）から平成37年度（2025年度）までの10年間とします。

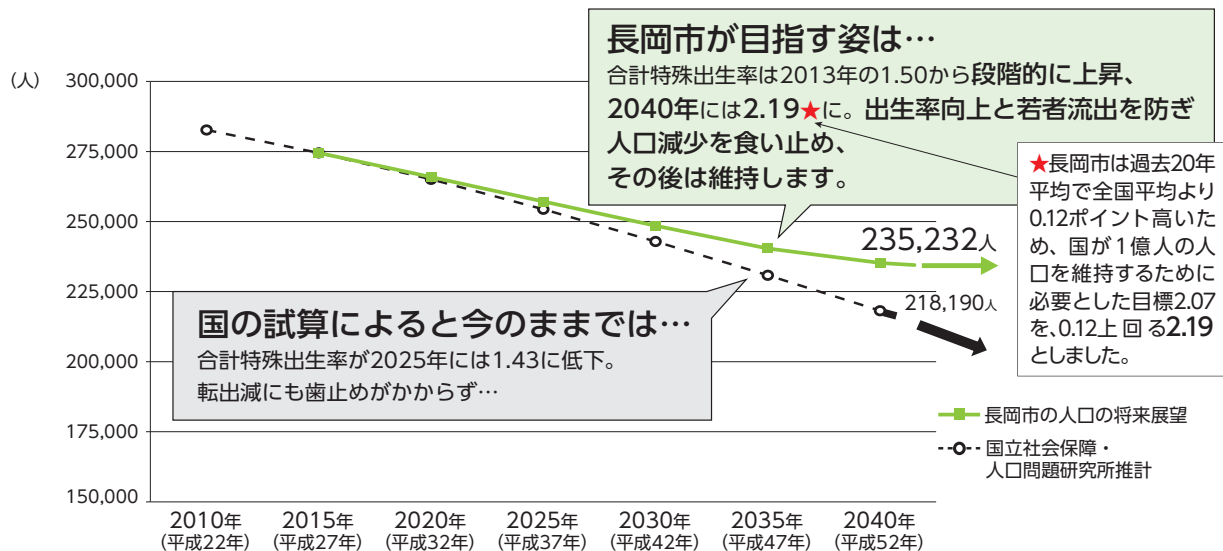
また、具体的な施策・事業等については、本計画を指針とする他の個別計画や毎年度の予算編成を通じて、変化する社会情勢や市民ニーズに柔軟に対応しながら推進するものとします。

<sup>※</sup>長岡版総合戦略（長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～）…将来のまちの活力維持や人口減少社会の諸問題を克服するために策定した戦略のこと。

リジュベネーション（rejuvenation）は、若返り、元気回復を意味する。

## 長岡市の人口の将来展望

人口減少問題に対処するため平成27年10月に策定した「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」における将来の人口展望の考え方を基本にまちづくりを進めていきます。



## 長岡市の人口の推移

(単位：人)

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長岡地域	185,938	190,470	193,414	195,681	193,917	192,802
中之島地域	12,133	12,727	12,804	12,382	12,128	11,528
越路地域	14,352	14,294	14,271	13,958	14,003	13,830
三島地域	7,091	7,269	7,618	7,553	7,494	7,098
山古志地域	2,867	2,523	2,222	10	1,181	1,002
小国地域	8,400	7,989	7,389	6,760	6,070	5,469
和島地域	5,422	5,232	4,954	4,803	4,463	4,109
寺泊地域	13,178	12,761	12,270	11,636	10,745	9,704
栃尾地域	27,809	26,390	24,704	23,168	21,004	18,764
与板地域	7,390	7,484	7,493	7,273	6,808	6,461
川口地域	6,343	6,111	5,748	5,233	4,861	4,479
合計	290,923	293,250	292,887	288,457	282,674	275,246

【出典】国勢調査（総務省）

※平成27年数値は、平成28年2月26日公表の人口速報集計結果（地域別人口は長岡市集計結果）

### 前より前へ！長岡

## 志を未来に活かし輝き続けるまち

長岡市はこれまでの10年間、合併による新市のまちづくりと大災害からの創造的復興という大きな課題に取り組んできました。

全国的な問題である人口減少に歯止めをかけるため、これからの長岡のまちづくりには、10年20年先の未来を担う次の世代への投資が求められます。長岡人の心に息づく「米百俵」の精神<sup>\*</sup>を受け継ぎ、未来に向かって志を大切にし、まちづくりを支える人や産業を積極的に応援します。

また、長岡には、山・川・海などの豊かな自然とまちなかの利便性があり、歴史・文化・伝統など多様な地域資源があります。これらの「宝」を活かし、磨き上げ、さらに発展させることで、「ふるさと長岡」への愛着と誇りを育むとともに、市内から海外まで広く情報発信し交流を拡大するなど、まちの魅力を高める取り組みを進めます。

そして、若者はもちろん経験豊かな世代も含めた全市民が一致団結して、誰もが健やかに暮らすことのできる、快適な暮らしと活気あるまちをつくり、オール長岡で輝き続ける長岡を目指します。

## 将来像実現のための6つの政策

<b>政策1 協働によるまちづくり</b>	市民力と地域力を活かして、新たな価値や活力を生み出すまちづくりを目指します。
<b>政策2 人材育成</b>	子育て支援や教育の充実、市民主体の文化・スポーツ活動への支援などにより、長岡への愛着と誇りを持った人材の育成を目指します。
<b>政策3 さらなる産業の活性化</b>	地元企業・地場産業への応援と、新たな雇用と産業の創出により、若々しく成長力のあるまちづくりを目指します。
<b>政策4 暮らしの安心と活力</b>	市民の誰もが、健やかで元気に、安全で安心に暮らせて、活力が持てる地域社会づくりを目指します。
<b>政策5 都市環境の充実</b>	豊かな自然とまちの魅力が共生し、暮らしやすく、快適で環境にやさしいまちづくりを目指します。
<b>政策6 魅力創造・発信</b>	地域資源の掘り起こしや磨き上げを行うとともに、国内外に向けた魅力の発信や交流の促進により、「長岡ファン」の拡大を目指します。

<sup>\*</sup>「米百俵」の精神…長岡藩大参事の小林虎三郎は、戊辰戦争に敗れ、人々が困窮していた明治初期、救援米として送られた百俵の米を藩士らの反対を説得し、国漢学校の整備資金に充てた。「米百俵」の精神は、この人づくりを第一とする故事に由来し、長岡市のまちづくりの指針や教育の理念として、今日に受け継がれている。

## 市民力と地域力を活かして、新たな価値や活力を生み出すまちづくりを目指します。

少子高齢化や人口減少が進むなか、長岡市では、市民との協働によるまちづくりを柱として、市民・地域・事業者などと協働・連携を図るとともに、豊かで持続可能なまちづくりに向け、近隣市町村や姉妹都市などとの広域連携を推進してきました。

また、市民満足度の向上を目標に掲げ、効率的で開かれた自治体経営を目指すとともに、男女共同参画や人権の尊重、地域情報化、多様な地域交流の推進などにも、積極的に取り組んでいます。

一方、全国的な状況として、自治体を構成する地域社会のニーズや課題は、それぞれの実情や特性に応じて、近年ますます多様化しています。これらに対応するため、さまざまな政策とあわせて、自由な発想による公益的な市民活動が広がることに、社会の期待が高まっています。

こうしたことから、長岡が将来にわたり活力あふれるまちであり続けるために、「協働によるまちづくり」を市政全般に通じる共通の理念として掲げ、市民や地域、事業者などが個性を活かしながら、力を合わせるまちづくりを目指します。と

りわけ、将来の長岡を担っていく若者層が、積極的かつ主体的にまちづくりに参画し、活躍できる環境づくりを強力に推進します。

また、男女を問わず全ての個人がその個性と能力を十分に発揮できる社会づくりを推進するとともに、誰もが互いの人権を尊重し合う社会の実現を目指します。

さらに、外国人市民の地域社会への参画を促す仕組みづくりなど、国籍や民族の違いを超えた多文化共生社会を推進します。

また、市民生活の広域化や市民ニーズの多様化に対応していくため、近隣自治体間の連携を一層強化し、地域全体で生活に必要な機能を確保する視点を取り入れます。

このようなことから、「協働によるまちづくり」を推進するため、経営的視点に立ち、開かれた自治体経営に努めるとともに、人口減少などの今後の社会環境の変化に対応できる健全で効率的な行財政運営を推進します。

### 施策の柱

1-1	市民との協働の推進
1-2	若者が参画するまちづくりの推進
1-3	男女共同参画の推進と人権の尊重
1-4	多文化共生社会の推進
1-5	市民の暮らしやすさを支える広域的な連携の推進
1-6	経営的視点に立った行財政運営の推進



市民でにぎわう協働のシンボル  
シティホールプラザ「アオーレ長岡」

## 子育て支援や教育の充実、市民主体の文化・スポーツ活動への支援などにより、長岡への愛着と誇りを持った人材の育成を目指します。

長岡市は、“人づくり”を第一とする「米百俵」の精神を受け継ぎ、多くの市民の知恵と力によって復興・発展を遂げてきたまちです。市内には、個性豊かな11地域の伝統や文化が息づき、貴重な歴史的・文化的資源が保存・継承されています。

これまで「熱中！感動！夢づくり教育」をはじめ、やる気や学ぶ意欲を育み、確かな学力を身に付ける学校教育を推進するとともに、市立学校の耐震補強を計画的に実施するなど、子どもたちが健やかに育ち、安心して学べる教育環境の整備を進めてきました。

また、学校と地域との連携を推進するとともに、市民の学習意欲に応える環境の整備や高等教育機関との包括連携協定<sup>※</sup>などにより、多様な市民主体の生涯学習の機会を創出してきました。

長岡市は、未来に向けた人づくりのために、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、長岡のまちの将来を担う柔軟でたくましい人材や郷土愛と志を抱き国際社会に羽ばたく人材を育てるとともに、まちづくりや地域活動のリーダーを育成します。

教育の中心的な施策として、「熱中する」「感動する」「夢につながる」豊かな体験と確かな学びで子どものやる気や学ぶ意欲を引き出し、夢を描

き志を立てる力と生き抜く自信を育む教育に取り組めます。

文化は、まちの品格を高め、市民の心を豊かにします。さまざまな文化芸術が身近に感じられる施策を進めるとともに、想像力豊かで、表現力の高い文化の担い手を育成します。

また、スポーツを楽しむ子どもを増やし、競技力向上を目指して選手の育成に取り組むほか、生涯にわたりスポーツに親しむ機会の充実を図ります。さらに、市民の学びの意欲を引き出し、学んだ成果を地域社会に活かすことのできる、多彩な「まなびの場」づくり、人づくりを進めます。

子育て支援では、「育つよろこび 育てる幸せ みんなで子育てするまち 長岡」を基本理念に、長岡オリジナルの保育士のいる屋根付き公園「子育ての駅」などで子育てを積極的に支援してきました。また、幼児教育を充実するとともに、子育て支援と教育に一貫して取り組み、一人ひとりを大切に育てる支援してきました。

今後はさらに、子育て環境を整備し、長岡で子どもを産み育てたいと思う人を増やすとともに、出生率を上げ、人口減少に歯止めをかけることを目指します。

### 施策の柱

2-1	郷土愛の醸成による人材の育成
2-2	子ども・子育て支援の充実
2-3	質の高い教育の推進
2-4	生涯にわたるまなびの場の充実



米百俵の群像

<sup>※</sup>包括連携協定…社会課題などに対し、自治体と民間企業等が両者の強みを活かしながら対応するため、取り決めに交わして相互の連携を強化するもの。

**地元企業・地場産業への応援と、新たな雇用と産業の創出により、若々しく成長力のあるまちづくりを目指します。**

長岡市は、米を中心とした品質の高い農作物をはじめとした農林水産業、高度な「ものづくり技術」を持つ企業集積に代表される工業、県内第2の商圏を持つ商業と、バランスのとれた産業構造を有するまちとなっています。

特に、技術、デザイン、経済・経営などの高等教育機関や公設の産業支援機関が立地し、地元企業・地場産業の支援体制が整っていることが大きな特徴です。

しかしながら、産業を取り巻く環境は、人口減少の進展とともに少子高齢社会を迎えたことによる国内市場の縮小や後継者等の人材不足、グローバル化<sup>\*</sup>による国内外での価格競争の激化など厳しい状況にあります。

こうしたことから、将来に向け、若々しく成長力のあるまちの活力を維持するために、地域経済と雇用を支え、産業の活性化を図ることが重要と

なります。

このため、長岡市では、地元企業・地場産業の競争力強化の取り組みや意欲ある担い手の確保・育成のほか、経営基盤の強化など持続的な成長・発展を産官学金の総がかりで応援します。さらに、これらの総合的な支援体制を活かし、新たな産業の創出や育成を支援するとともに、若者などの起業家がチャレンジしやすい環境を整備し日本一起業・創業しやすいまちを目指します。

また、長岡の強み・魅力を情報発信して企業誘致の推進に努め、雇用の維持拡大と産業の活性化を図ります。

加えて、労働者の意欲向上や企業の人材確保、定着を促進するため、誰もが働きやすい職場環境を整備するとともに、地元企業の魅力を発信することにより、若者の地元就職、U・Iターンを促進します。

## 施策の柱

3-1	頑張る地元企業・地場産業の応援
3-2	起業・創業の促進と新産業の創出
3-3	働きやすい職場づくりと雇用の促進



高度な機械加工と伝統の職人技が光る  
長岡のものづくり技術  
(機械ではできない超精密な平面の仕上げ)

<sup>\*</sup>グローバル化…資本や労働力が国境を越えて、地球規模で活発に移動し、貿易や投資が増えることで世界の経済的結びつきが深まること。

## 市民の誰もが、健やかで元気に、安全で安心して暮らせて、活力が持てる地域社会づくりを目指します。

長岡市では高齢化が急速に進んでおり、高齢化率は全国平均と比べても高くなっています。市民の誰もが、高齢になっても健康を維持するとともに、安心して地域で活動できる環境づくりが求められています。

このため、多世代にわたる健康づくりと生きがいづくりを、家庭・地域・行政が連携して推進します。このことにより、将来的な健康寿命の延伸を図り、医療・介護費の抑制を目指します。

市民が必要なときに、必要な医療を受けることができるよう、地域医療体制や救急医療体制の充実に努めます。介護が必要な人や障害のある人も地域で安心して暮らしていけるよう「地域包括ケア<sup>※</sup>」を推進し、支援体制の充実に努めます。

また、人口減少・高齢化社会を迎えたなか、活力あふれるまちづくりを持続していくための原動

力は、「市民力」「地域力」です。市民一人ひとりが地域に愛着と誇りを持ち、地域の特性に応じたまちづくりに主体的に参画することが地域の活力につながります。

このため、地域コミュニティ活動を推進する組織の体制づくりや地域活動への支援を行い、住民主体のまちづくりを推進します。

中越大震災や7.13水害など度重なる被災経験から学んだ多くの教訓のもと、市民力・地域力を最大限に活かし、市民・防災関係機関・行政などが連携した防災体制の強化を図り、日本一災害に強いまちづくりを推進します。

地域住民と市、警察などの関係機関・団体が、連携しながら一体となった活動を推進・強化し、犯罪や交通事故、消費者トラブルなどを未然に防止します。

### 施策の柱

4-1	多世代の健康と生きがいづくりの推進
4-2	福祉・医療体制の充実
4-3	地域コミュニティ活動の推進
4-4	安全で安心なまちづくりの推進



健康づくり拠点での健康相談

※地域包括ケア…高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを可能な限り続けることができるよう、高齢者のニーズに応じて「医療」、「介護」、「介護予防」、「生活支援」、「住まい」が一体的、包括的に提供されること。



**豊かな自然とまちの魅力が共生し、暮らしやすく、快適で環境にやさしいまちづくりを目指します。**

長岡市では、新潟県中越大地震からの復旧・復興にあたり、「日本一災害に強いまち」を目指し、社会基盤整備を進めてきました。また、都心地区及び各地域の中心部の基盤整備を推進するとともに、地域間の連携・交流を促進するため、フェニックス大橋・左岸バイパスなどの広域基幹道路の整備を進め、さらに、身近な生活道路、上下水道など生活基盤の整備、公共交通ネットワークの維持・強化などに取り組んできました。

今後の人口減少社会を見据えると、それぞれの地域が輝き、連携するコンパクトなまちづくりと市民が安全・安心に暮らせる生活環境を創出することが求められています。

このため、交通利便性の高い都心地区及び各地域の中心部等では、医療や福祉、商業など市民生

活の利便性を高める機能などがまとまって立地する、持続可能なまちづくりを推進するとともに、市内全域を見据えた公共交通の確保と広域基幹道路体系の整備を進め、市全体の利便性向上を図ります。

また、長岡らしい地域資源を活かした特色ある良好な景観形成を進め、まちの魅力を高めていきます。さらに、これまで進めてきた災害に強いまちづくりを一層推進するとともに、道路や上下水道など生活基盤の整備と適正な維持管理を進めることで市民の暮らしを守ります。

まちづくりの推進にあたっては、自然環境の保全と開発との調和に引き続き取り組むとともに、森林や農村環境の保全に努めます。

## 施策の柱

5-1	拠点性を高めるまちづくりの推進
5-2	身近な生活基盤の整備・活用
5-3	災害に強いまちづくりとインフラの長寿命化
5-4	自然環境の保全・活用と環境負荷の軽減



フェニックス大橋

地域資源の掘り起こしや磨き上げを行うとともに、国内外に向けた魅力の発信や交流の促進により、「長岡ファン」の拡大を目指します。

長岡市は、3度の市町村合併により、守門岳から日本海までの広大で豊かな自然環境と、長い歴史によって培われてきた伝統や文化、景観など、多様な地域資源を有する都市として、それぞれの地域が輝く共存共栄のまちづくりを進めてきました。

また、本市は平成16年に7.13水害及び中越大地震に相次ぎ見舞われましたが、この災害の経験と教訓や、災害をバネにしたさらなる地域振興への取り組みは、「長岡モデル」として東日本大震災をはじめとした他の被災地の支援に役立てられています。

一方、人口減少や少子高齢化に伴う地域の活力低下が見込まれる今日の社会状況において、居住地や勤務地、また観光地として選ばれる都市となるために、明確な個性や優位性を打ち出すことが求められています。

長岡市には、長岡花火、錦鯉、火焰土器、米、

日本酒など全国的な知名度を得ている地域資源がある一方、魅力は持っているのに知名度が低い地域資源があることから、新たな価値の付加や発信方法の工夫など、より一層の磨き上げを進めます。

また、北陸新幹線の開業や海外からの訪日観光客数の増加など市を取り巻く環境の変化に対応し、本市の玄関口であるJR長岡駅周辺の魅力を高めるとともに、近隣自治体と連携した周遊性に富んだ魅力的な観光ルートづくりなどを進めます。

そして、近年のソーシャルメディア<sup>※</sup>の発達や、コミュニケーション手段の多様化などによって、情報発信の手法も多様かつ複雑化しています。そのため、市民を巻き込むなど、より戦略的な情報発信を行います。

「長岡ファン」の獲得に向け、市民と一緒にになった地域資源の磨き上げと国内外への情報発信、近隣市町村や海外の姉妹都市など関係団体と連携した交流人口増加に向けた取り組みを促進します。

施策の柱

6-1	地域資源の掘り起こし・磨き上げ
6-2	全国・世界への情報発信
6-3	交流人口の拡大



平和への想いが込められた  
「長岡花火」

※ソーシャルメディア…インターネットの利用を通じ、コミュニケーションを促進するサービスの総称。

## 土地利用構想

長岡市は、市町村合併による市域の拡大により、地形、生活環境、歴史・文化などのさまざまな面で多様性を持つ地域で構成され、その特性を活かした土地利用の対象が広がりました。

一方で、人口減少・高齢化が進展するなか、にぎわいや活力の維持とともに、各地域での暮らしやすさを確保し、人口の定着を図ることが重要となっています。

市民の意識も、山・川・海などの自然と共生しつつ、生産物や資源等の地産地消のほか、循環型・低炭素型社会などの推進を重視する価値観へと変わってきています。

このような状況を踏まえ、総合的かつ計画的な土地利用を図ることにより、今後も魅力的で活力あるまちづくりを推進するため、次の5つの基本方針を定めます。

- 地勢上のつながりを踏まえた土地利用
- コンパクトで、広域的な拠点性を高める土地利用
- 各地域の多様性を活かし、長岡の総合的な魅力を発揮する土地利用
- 豊かさや安心を支える土地利用
- みんなで考え、実践する土地利用

## 「地域資源」を活かした地域づくり

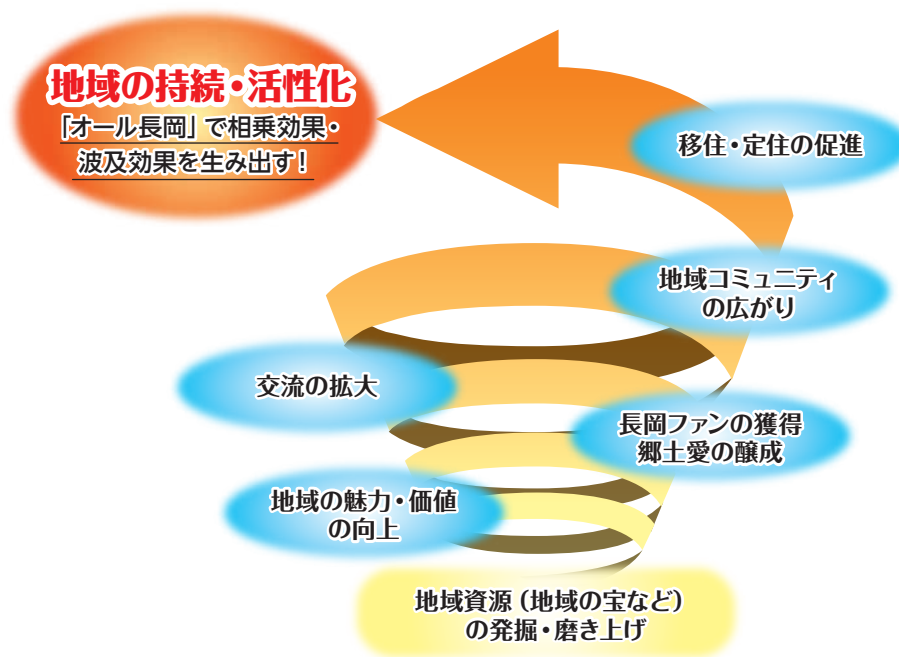
守門岳から日本海に広がる変化に富んだ市域には、多様な資源を持つ個性豊かな11の地域があります。これからの地域づくりにおいては、この地域資源を活かすことでさらなる地域の活性化を目指します。

長岡市には、長岡花火、錦鯉、火焰土器など全国的に有名なもののほか、歴史、文化、自然、景観、特産品など各地域で育まれてきた地域資源（地域の宝など）が数多くあります。

そこにしかない資源の発掘や磨き上げを、地域住民をはじめ、関係機関などが協働して行い、発展させることで、地域の魅力や価値の向上を図り、郷土愛を育みます。

また、多様な地域資源同士の連携など、オール長岡で魅力を創出し、市民から世界中の人々まで広く長岡の情報を発信することで、長岡のさまざまな地域においてひと・モノ・情報の交流が拡大され、地域コミュニティの広がりが生まれます。

これらのことにより、移住・定住を促進し、いつまでも元気な地域づくりを目指します。



- 地域住民組織等、地域委員会、行政の協働による地域資源の発掘・磨き上げ
- 11地域の「地域資源」同士を連携させるなど、「オール長岡」で魅力を創出
- 魅力・価値向上のための効果的な情報発信の実施

## 長岡市の全体図



## ○11地域の「地域資源」



ナッチャン

### 長岡地域

長岡地域は、中央に信濃川が南北に流れ、東西には東山連峰と西山丘陵が連なり、市の中心部に位置します。市街地の形成は、江戸時代初めの長岡城の築城に始まる歴史あるまちです。  
また、上越新幹線や関越・北陸自動車道といった交通の要衝となっており、市の中心エリアとして、県立近代美術館や国営越後丘陵公園をはじめ、多くの公共施設が立地しています。  
市の玄関口であるＪＲ長岡駅前には、市民協働・交流の拠点シティホールプラザ「アオーレ長岡」をはじめ、大規模商業施設も立地しており、中越地域の中心としての役割を担うまちづくりを進めます。



なかのん

### 中之島地域

中之島地域は、信濃川と刈谷田川に挟まれ、緑豊かな平地が広がっています。肥沃な河川堆積土壌のもと古くから稲作を中心とした農業で栄えてきました。大区画のほ場整備も進み、効率的な良質米の栽培が行われているほか、真っ白な切り口と梨のような歯ごたえの「大口れんこん」も有名です。  
また、北陸自動車道の中之島見附インターチェンジや国道8号といった基幹交通体系を活かした流通基地が形成されています。  
刈谷田川上空で繰り上げられる勇壮な「今町・中之島大風合戦」や、治水利水事業に尽力した郷土の政治家、大竹貫一翁の記念館などを核として、さらなる交流の拡大を図る地域づくりを進めます。



るんるん

### 越路地域

越路地域は、信濃川と渋海川に挟まれ、西部には、丘陵地が形成されています。  
中心部をＪＲ信越本線が走り、信濃川沿いには国道351号、渋海川沿いには国道404号が縦貫し、長岡南越路スマートインターチェンジを有する交通の要衝となっています。  
越路地域は、澄んだ水、きれいな空気に囲まれたホテルが舞う里として、環境省から「ふるさといきものの里」として認定を受けています。  
ほかにも、樹齢150年もの木々を眺める「もみじ園」や、全国的に有名な酒、米菓、スポーツ用品製造などの企業の立地もあり、このような恵まれた地域資源を活かして地域の発展を目指します。



みしまる太くん

### 三島地域

三島地域は、東側の平坦地に水田地域が広がり、西側の西山丘陵には、豊富な里山資源のある山間地が広がっています。  
水稻を中心とした農業、良質な湧水で製造される酒や味噌、そうめん、手引き鋸などの地場産業で栄えており、近年では都市近郊型住宅地・農村工業団地として発展してきました。  
三島地域の宝である「三島の里山」を活かし、2mの両挽き鋸で丸太を豪快に切り落とす「全日本丸太早切選手権大会」や、里山整備で伐採した竹を利用した全国有数の規模のライトアップイベント「越後みしま 竹あかり街道」など、地域資源を活かし地域住民が主体となった地域づくりをさらに進めます。



小太郎

### 山古志地域

山古志地域は、周囲を山で囲まれた山間丘陵地で、地域内のほとんどが傾斜地です。谷底から山頂まで階段状に耕作される棚田や棚池の風景は、「日本の原風景」と称されています。  
こうした景観は、文化庁の農林水産業に関連する文化的景観の重要地域に選ばれました。そのほか、発祥の地として200年の歴史を有する「錦鯉」は市の魚に、千年の歴史がある「牛の角突き」は国指定重要無形民俗文化財に指定されています。  
平成16年に発生した中越大震災では、甚大な被害を受け全村避難を余儀なくされましたが、「帰ろう、山古志へ」を合言葉に地域を再生してきました。やまこし復興交流館「おらたる」をはじめ、被災からの経験と地域資源を活かし、交流による地域づくりを進めます。



おぐりん

### 小国地域

小国地域は、周囲を山に囲まれた盆地で、中央を渋海川が貫流し、周りに広がる肥沃な平坦地と河岸段丘を形成しています。  
基幹産業である稲作は、大区画ほ場で生産組織による効率的な稲作が行われており、地域の伝統野菜である「八石なす」は、長岡野菜としてブランド化されています。  
また、300年以上の伝統を持つ「小国和紙」は、国や県の無形文化財に指定されていて、雪を利用して作られる紙は、やわらかな風合いと強さが特徴で、紙すき体験なども行われています。  
これらの地域資源をはじめ、約83haの敷地に広がる「おぐに森林公園」など、文化と自然を活かした体験型の交流により、まちのにぎわいを創出します。



なら王わし麻呂

### 和島地域

和島地域は、中央部を島崎川と郷本川が流れ、農業を中心に発展してきました。奈良時代の国史跡「八幡林官衙遺跡」や鎌倉時代に建立された「妙法寺」、南北朝時代の「村岡城址」、越後鉄道（現JR越後線）の創業者・久須美家の邸宅「住雲園」など、歴史的資源の宝庫となっています。

また、良寛と貞心尼の出会いの地としても知られ、「はちすば通り」や「木村家」、「隆泉寺」など良寛ゆかりの名所のほか、「菊盛記念美術館」、オートキャンプ場、古民家を移築した道の駅、木造校舎をリノベーションした施設などの新たな交流を生み出す施設もあり、歴史的資源とあわせた地域づくりを進めます。



まりん

### 寺泊地域

寺泊地域は、日本海に面し、佐渡・弥彦山を背景にした景勝の地です。北前船の寄港地であり、古くから海上交通の要港や北国街道の宿場町として栄え、農業・漁業を基幹産業に発展してきました。近年では、夏の海水浴やマリンスポーツ、魚の市場通り、寺泊水族博物館、温泉のほか、寺泊港まつり海上大花火大会が盛大に開催され、年間280万人余の観光客が訪れています。

また、「寺泊歴史街道」や、佐渡からトキを受け入れ整備した「トキ分散飼育センター」などの文化的資源もあり、今後も海洋資源を中心に文化的資源も活用しながら、さらなる観光振興を進めます。



あぶらげんしん

### 栃尾地域

栃尾地域は、名峰守門岳に抱かれ、刈谷田川、塩谷川、西谷川が谷を刻んでいます。その流域に集落が形成され、刈谷田川と西谷川の合流部の平地には市街地が広がっています。

江戸時代中期以降は全国有数の織物産地となり、現在も繊維産業が基幹産業となっています。商店街には、冬の積雪時の通路を確保するための「雁木」が約4.3km連なり、日本有数の総延長を誇っています。

300年の歴史がある大きな「あぶらげ」などの特産品や名水百選「杜々の森湧水」などの観光資源に加えて、上杉謙信公旗揚げの地として毎年開催されている謙信公祭などを活用し、さらなる地域おこしを進めます。



よいたん

### 与板地域

与板地域は、西山丘陵を背にし、東側には信濃川と広大な耕地が広がっています。古くから河川交通の要衝として多くの豪商が活躍し、城下町として栄えた名残りを今もその町なみに留めています。

愛と義を貫いた知将「直江兼続」を支えた妻「お船」の生誕の地として知られ、直江氏の居城であった「本与板城跡」や「与板城跡」があります。

また、伝統的工芸品として経済産業大臣指定を受けた「越後与板打刃物」や、250年余の歴史を誇る「登り屋台」、豪商「大坂屋三輪家」により造られた庭園「楽山苑」などの歴史的・文化的資源があります。

これら数多くの資源を活かした交流を一層促進します。



かわぐっち

### 川口地域

川口地域は、大河信濃川と清流魚野川の合流部に位置し、二大河川が形成する河岸段丘に拓けた水と緑豊かな地です。古くから舟運による妻有郷、上田郷への物資運搬の基点として、また、三国街道の宿場として集落を構成し、交通の要衝として栄えてきました。

平成16年に発生した中越大震災における震央の地で、最大震度7を記録。甚大な被害を受けましたが、住民主体による復興活動に取り組み、その過程などを紹介する「川口きずな館」と「震央メモリアルパーク」が、中越大震災メモリアル拠点のひとつとして整備されました。

「魚沼産コシヒカリ」や魚野川から獲れる「鮎」などの食に加えて、「川口温泉」や古くから伝承されてきた祝い唄「天神ばやし」、全国植樹祭が行われた「ふるさとの森」などを活用し、地域づくりを進めます。



## 前より前へ！ 長岡

志を未来に活かし  
輝き続けるまち

---

発行 長岡市  
〒940-8501  
新潟県長岡市大手通1丁目4番地10  
電話 0258-35-1122 (代表)

編集 長岡市 (政策企画課)

---

